

平成26～27年 委員会報告

三田市議会ではこの1年間、常任委員会以外にも各委員会が、それぞれの役割を果たすべく積極的に活動してきました。ここでは3委員会の取組みの一部をご紹介します。

議会改革推進会議の活動報告

【市政相談会】 市議会議員が市民の皆さんから直接市政相談を受ける方法は全国的にも珍しく、新聞でも取り上げられました。毎月市民からさまざまな相談を受けています。

【議員研修会】 市民の方を講師に迎え、三田市史についてお話いただき、歴史を身近に感じる有意義な会となりました。

【新庁舎での掲示板、モニターによる会議の開催案内】 1階ロビーに委員会の開催予定を掲示し、来庁者の方に、議会の様子をご覧いただけるようになりました。

【市民との意見交換会】 テーマ別から参加市民による意見交換会の形に変えて実施しました。市民の皆さんから多くの意見が出され、今後の議会活動の参考になりました。



市民との意見交換会

政策研究会の活動報告

市議会が政策提案(条例策定など)を行うことを目的として調査研究を行っています。

【条例案の策定】 三田市のふるさと産業を活性化するための条例を他市の取組みも参考にしながら策定中です。市をあげて産業振興に取り組む鳥羽市、倉吉市を視察しました。

【各種団体との意見交換】 関西学院大学教授のご協力のもと、学生の皆さんへのプレゼンやワークショップ、三田市商工会や、JA兵庫六甲及び関学生の皆さんを迎えた公聴会などを企画し、情報やご意見を条例案に取り入れています。

【三田市の状況を調査】 三田の歴史文化や地理などを検証するため市の市史担当職員から説明を受けるとともに、農業や商工観光の振興状況を調査しました。



関西学院大学三田キャンパスでのプレゼン

広報委員会の活動報告

【年8回の議会報つなぐ発行】 少しでも早く議会の情報をお知らせするために、発行回数を増やしました。全国的にも年8回の発行は珍しい取組みで、他市からの視察も多くあります。

【ネットDEつなぐの発行】 年8回の発行にプラスする形で、ネット版つなぐの発行を始めました。今後も通常の「つなぐ」を補う形で、情報発信できればと考えています。

【他市からの視察受け入れ】 この1年間で広報委員会への視察受け入れが8回ありました。視察の受け入れとしては多いほうで、過去の担当委員の皆さんや市民のみなさんからのご意見を取り入れるなどした、成果ではないでしょうか。



他市町議会からの視察受け入れ

鳥羽市議会と初の合同研修会

三田市と三重県鳥羽市は、戦国から江戸時代の九鬼氏による統治を縁とする歴史的文化の繋がりを背景に、平成23年7月1日に「友好都市宣言」を調印しました。これを機に両市議会でも交流を図ってきましたが、さらに相互交流を深めるため、10月に、議長、副議長を含む各会派からの代表8名が初めて鳥羽市を訪問し、議会交流として合同研修会などを行いました。

10月14日
【合同研修】
①講演
②グループ
ディスカッション
10月15日
【会議】
【現地視察】
「歴史文化
ガイドセンター」
「鳥羽城跡」

講演

テーマ：「全国に広がる地方議会改革」 講師：中尾 修さん(元北海道栗山町議会事務局長)

「議会報告会は参加人数が少なくても続けることに意義がある。できれば本会議で結果報告を。」
「国政問題は地方と無関係ではない。地方議会からも声を上げるべき。」
「三田市の議会基本条例は事務局職員の人事権まで網羅されるなど素晴らしい内容になっている。」
など多岐にわたってご講演いただきました。

グループディスカッション

三田市と鳥羽市の議員が各テーブルに分かれ、4つのテーマに基づいたグループディスカッションと発表を行い、次のような意見交換を行いました。

テーマ①「議会の権能強化」

市議会からの政策提案も必要だが、市(長)からの提案が市民にとって間違いのないものになっているかをしっかりチェックできる議会体制が大事。

テーマ②「市民との対話」

議会報告会の参加者が固定化してしまっている。また、参加者が議員に要望を伝える場所になっているのが課題である。
議会の仕組みを知ってもらう工夫が必要。

テーマ③「議会の情報発信」

議会だよりは、より多くの人に読んでいただけるための努力を休むことなく続けていこう。市とは別に独立した市議会のホームページを持てれば議会独自の発信ができる。

テーマ④「議員定数・報酬」

定数の変動によって委員会審議などに影響が出ないよう現状維持が望ましい。報酬に関する議論は報酬審議会に委ねるべき。



その他、鳥羽市歴史文化ガイドセンターや鳥羽城跡を現地視察。文化財専門員から九鬼氏を中心とした三田市の深い結びつきについて説明を受け、学習を深めました。

総括

昨年10月、「議会の活性化～チーム議会」を標榜してスタート。まず取り組んだのは議会費の増額と職員体制の充実。議会の露出度アップ～議会報告会の充実や議会活動の市民への周知徹底～如何にマスコミ報道に値する事業に取り組むべきか?各委員会の年次計画に基づく活動、所管団体との懇談。議会報「つなぐ」の有効利用。鳥羽市を訪問し初の合同研修会を行うなど市議会間の交流を順調にスタート。これらは各議員の理解により一定の成果を上げた。達成感のある議長職であった。
(前議長 前中敏弘)